

全国協議会 ニュース

2009年9月1日発行 第207号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者:中野勝博
http://www.marrow.or.jp/
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

舛添厚労相に大谷会長が重ねて要望

財団元職員不当解雇訴訟問題で

骨髄移植推進財団元職員が懲戒解雇処分を不当として地位確認と慰謝料を求めた裁判で、6月12日に東京地裁は解雇無効と慰謝料支払いを命じた。これに対し全国協議会が、判決を真摯に受け止めて控訴を取り下げること、慰謝料や裁判費用を財団予算から支えないこと、責任を明らかにし再発防止をはかることを求める要望書を財団に提出し、財団理事・評議員や骨髄バンク議員連盟に事態正常化に向けた協力を求める要望書を提出したことは、7月号でお知らせしたとおりです。

その後、7月8日の衆議院厚生労働委員会において、阿部知子議員(社民党)より、財団内部で厚生労働省出身の理事が端緒となった混乱と、それに関連して解雇された元職員からの訴訟への対応についての質問がありました。これに対して舛添厚労大臣は「よく実情を調べて、指導すべき点があれば指導したい」、また裁判費用に対して「国庫補助金ではなく管理事務費からの支出になると思うが、何であれそこから貴重なお金を使うくらいなら患者の負担を減らしたらいかがかという趣旨だと思っております」と答弁しました。

これをを受けて全国協議会は、答弁の内容をぜひ実行していただきたいとの思いから、8月4日に「財団法人骨髄移植推進財団の適正な事業運営のための指導について」と題する舛添大臣宛の要望書を、臓器移植対策室を通じて提出しました。要望書は、阿部議員の質問に対する大臣の答弁を引用した上で、「財団が係争中の裁判に関する費用や敗訴した場合の慰謝料等について、国庫補助金、患者負担金および寄付金から支出しないように指導すること」「国民の善意の寄付が患者・ドナーの方々に、効果的に生かされるよう適切な指導をするこ

と」を求めています。そして8月7日、全国協議会大谷貴子会長の地元である埼玉県加須市を舛添大臣が所用に訪れた際、大臣と加須市長の懇談の場に大谷会長が同席させていただく機会を得たことから、大谷会長より舛添大臣に要望書の写しを直接手渡し、財団の運営の改善に向けた指導を、あらためて口頭で要請しました。総選挙が行われることもあり、すぐに具体的な動きにつながるものではないかもしれませんが、厚生労働大臣に直接実情を訴えることができたのは、大きな意義があつたと全国協議会では考えています。

これまで多くの皆様にご支援いただいた「あやちゃん基金」では、あやちゃんの贈り物展やMAMOのメッセージ展、いのちの輝き展を全国各地で開催してきましたが、全国協議会の事業運営の見直しにより、11月末日をもって同基金を白血病患者支援基金に統合して事業を継続することといたしました。「あ

新体制を担う理事より皆様へ①

2009年度の新体制での全国協議会理事會が発進しました。今号より、就任した理事メンバーからのメッセージをご紹介します。

◆中山 菜都美(新任)



本年度から理事に就任しました中山です。5年前に自身がAMLを発病しバンクを通じて移植をしたのをきっかけに静岡骨髄バンクを推進する会で運営委員

ありがとう!「あやちゃん基金」

11月をもって白血病患者支援基金に統合

これまで多くの皆様にご支援いただいた「あやちゃん基金」では、あやちゃんの贈り物展やMAMOのメッセージ展、いのちの輝き展を全国各地で開催してきましたが、全国協議会の事業運営の見直しにより、11月末日をもって同基金を白血病患者支援基金に統合して事業を継続することといたしました。「あ



◆中村 福代(再任)

九州ブロックからの理事として、再び理事を務めさせていただきますことになりました宮崎の中村です。時代と共に変わり行く骨髄バンク事情に微力ながらも必死で付いていつている次第ではございますが、私自身ボランティアを始めた初心は忘れてはおりませんし、これからも忘れてはならないと肝に銘じております。今期は全国協議会20周年を迎えるにあたり「20周年事業」が計画されており、私は協議会に加盟してから5年の歴史しか知りません。これを機に骨髄バンク設立から今日までの協議会の歴史を勉強させていただきますながら今後どのような協議会であるべきかを九州の加盟団体さんと初め全国のボランティアさんと心をひとつにし理事として取り組んで参りたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



◆野平 晋作(新任)

この度全国協議会のお世話になることになりました、千葉県成田市出身の野平晋作です。2009年の1月に、千葉の梅田会長から理事のお話を頂き、不遜ながら理事に就任いたしました。普及啓発活動には様々な困難が付きまといますが、今苦しんでいる患者さんの顔を思い出し、現存の問題の解決や全国協議会の発達に少しでも貢献したいと思っております。これから2年間、宜しくお願いいたします。



◆水谷 久美(新任)

今年度、理事を務めさせていただきますことになりました水谷久美です。私と骨髄バンク活動との出会いは約15年前。あいち骨髄バンクを支援する会(旧、骨髄バンクを支援する愛知の会)の事務局員としてお手伝いを始めたのがきっかけでした。バンク活動に関わり、多くの方との出会いにより本当にいろいろな事を学ばせていただきました。この度、全国協議会の理事としてお手伝いさせていただきます。事さら

まだ分からないことも多くみなさんにご迷惑をおかけしますが、感謝の気持ちを今後の活動の中で表すことが出来たらと思います。2年間よろしく願いします。

◆溝口 理文(新任)



私は35年程前に、長男を白血病で亡くしました。その後、骨髄移植という有力な治療法があるが、ドナーが足りなくて、移植を受けられない方が多くいらつしやることを知り、山形の会でお手伝いを始めました。退職後、千葉の会でもお手伝いを続けております。

◆高橋 めぐみ(新任)



今回、理事を務めさせていただきますことになりました高橋めぐみです。私は97年に骨髄異形成症候群を発病し、98年に骨髄バンクのドナーさんより骨髄を提供していただきました。



◆村上 忠雄(再任)

当初は、「神奈川県骨髄移植を考える会」等から推薦を頂き、理事に就任し、2期目となります。1期目は勉強と現状の把握で過ぎた感じがしておりますが、その中でもいくつかの課題を感じました。2期目はこれらを基に、骨髄バンクに係わる団体の連携づくりと、地域を大事にした活動を考えております。まず、財団、日赤、患者団体、行政等との連絡、調整を密にして、協力態勢づくりと連携の強化、更

全国協議会 厚生労働大臣 舛添 要一 様

全協第2141号 2009年8月4日

特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会 会長 大谷 貴子

財団法人骨髄移植推進財団の適正な事業運営のための指導について(要望)

貴職におかれましては、日頃より骨髄バンク事業推進のためにご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、去る7月8日の衆議院厚生労働委員会において、阿部知子委員(社民党)より、財団法人骨髄移植推進財団(以下、財団)内部の、厚生労働者から天下った理事が端緒となったと言われている混乱とそれに関連して解雇された元職員からの訴訟への対応についての質問がありました。

貴職はそれに対する答弁の中で、「(略)本来の目的である骨髄移植ということについて悪いイメージが出たり、(略)善意の御寄付の趣旨が生かされないようなことになると大変問題だと思っております。これはよく実情を調べて、指導すべき点があれば指導したいと思っております。」と答弁されております。また裁判費用に関して「(略)基本的にはこういう費用には国庫補助金を充当しないことになっているはずなので、管理事務費としての支出になるんだらうと思います。しかし、阿部さんのおっしゃるよう、管理事務費であれ何であれ、そこから貴重なお金を使うくらいなら患者の負担を減らしたらいかがかという御趣旨だと思いますので、そういうことも含めて、どういう形でこの財団を指導できるか検討させていただきます」と答弁されています。

日本骨髄バンクは、国からの通知にあるとおり、国の主導のもと財団が事業主体となり取り組んでいる事業であります。したがって、国は財団の適正な事業運営に責任を持つ立場にあり、この問題についても適切な指導がなされるべきものと思料いたします。

国民の理解と協力に支えられながら患者救命を使命とする骨髄バンクは、今、患者に不安と動揺を与え、社会からの信頼を失うような事態に直面しています。骨髄バンクが一日も早く信頼を回復し、事業を正常化できるよう、下記事項について必要な措置を講じてくださるよう要望いたします。

記

1. 財団の財源である国庫補助金、患者負担金及び寄付金はその性格上、骨髄バンク事業の直接的な経費に充当すべきものであり、その目的以外への支出は納税者や患者、善意の寄付者から理解を得られるものではありません。財団が係争中の裁判に関して、それに関する一切の費用及び仮に財団が敗訴した場合に元職員に支払わなければならない慰謝料等について、これら財源からの支出をしないよう指導してください。
2. 国民の皆様の善意の寄付が、真に患者様、ドナーの方々等に、効果的に活かされるよう、適切な指導をお願い致します。

以上

全国協議会では、患者さん、ドナーの方々にとって必要な

私が生かされるのは、全国のボランティアの方々、積み重ねられた草の根運動と、

ドナーさんとそのご家族のご理解があつてこそです。この素晴らしい活動に参加できる事に感謝し、患者さんに元気を届けられるよう努力致しますので、よろしく申し上げます。

2009年度賛助会員 (7月21日~8月23日)	
東京町田グリーンライオンズクラブ	5,000円
大宮シティロータリークラブ	30,000円
横浜神奈川東ライオンズクラブ	10,000円
西那須野ライオンズクラブ	10,000円
熊谷西ロータリークラブ	20,000円
加須ライオンズクラブ	5,000円
瑞浪桔梗ライオンズクラブ	5,000円
石川嘉彦	2,000円
匿名	2,000円
匿名	2,000円

骨髄移植推進財団の不思議

二ノス編集長 品川保弘

表題の●の部分にどんな数字が入るのかわかりません。10年あまりも全国協議会の役員を務めさせていただき、その間に2年間だけですが財団の理事にも就かせていただいた経験を通して、骨髄移植推進財団という組織に対して「？」と思わずにはいられないことが多々ありますので、思いつくままに記したいと思います。

【財団の役員選任について】

財団には、その寄附行為で定められた主要な会議体として、理事会(現在は理事23名で構成)と評議員会(現在は32名の評議員で構成)があります。一言で言えば、財団の運営方針、事業内容、予算を決め、これらを執行するのが理事会で、理事会での決定事項や執行状況が妥当か否かを判断し、適宜助言を行うのが評議員会と言えるでしょう。

ここで私が「？」と感じるのは、これら二つの会議体を構成する役員の選任方法です。財団の理事は評議員会で決められ、一方、評議員は理事会で決められます。「決める」という表現は、正しくはないかも知れませんが、実際には、役員選任に関する議案を承認するしかないかだけの作業のようです。それぞれの会議体がどのようなメンバーで構成されるべきか、また具体的にどのような方が構成員として財団の運営や発展に寄与できるか

といった根幹の部分には、一切関わらないシステムと云ってよいでしょう。

そもそも、AがBのメンバーを決め、BがAのメンバーを決めるという方法論に、少なくとも私は違和感を覚えます。組織としてはそれが問題となることではなく、所管である厚生省(当時)からもお墨付きを与えられたやり方の方ではあります。それぞれが独立して、より大きな枠組みの中で、透明性の高いステップを踏んで、より開かれた方法でメンバーを決めてほしいと思います。

財団の役員選任に関して、いま私たちがもつとも憂慮すべきは、前記の会議体、とりわけ評議員会に提案される理事候補者の大半が、各界の著名団体やリーダークラスのアテ職となっていること、そして、わずかながらアテ職ではない理事候補者については、財団の事務局トップを含むごく一部の方々の「好み」で、人選が行われているらしいということではないでしょうか。

アテ職の方々の中には、委任状の提出により形式上は出席扱いになっているとしても、実際の会合へは一度も出席したことのない方も多いのですが、中にはご自身が骨髄移植推進財団の役員であることを認識していない方や、財団の概要や骨髄バンクの意義などについてご存じない方が全幅の信頼をおき最も適任

心からのご寄付に感謝申し上げます

7月21日～8月23日

鷺宮ライオンズクラブ	現金	10,000円
㈱タクトコーポレーション	現金	10,000円
山田康博	現金	9,880円
塩谷泰人	現金	1,000円
鈴木純子	現金	1,340円
村上順子	現金	1,580円
大村真也	現金	30,000円
千葉洋和	現金	3,000円
匿名	現金	5,000円
●白血病患者支援基金		
㈱グルメシティ北海道万代店	現金	3,303円
小野塚照直	現金	5,000円
スナック「泉」	現金	1,269円
喫茶ポトス	現金	1,910円
マサヤ美容室	現金	744円
㈱北越ケーズ	現金	19,814円
●佐藤さち子患者支援基金		
加藤正裕	現金	10,000円(敬称略)

活動資金の援助をお願いします

銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会



登録会や普及啓発イベントで、8月7日から9日まで、「第50回瑞浪美濃源氏七夕まつり」が開催された。メインである「よさこいソーラン踊り」には全国各地から64チーム3千人の汗が猛暑の中に吹き飛んだ！

9日には、瑞浪桔梗ライオンズクラブの皆さんが、骨髄バンク登録会を開催され、例年お手伝いをいただく瑞浪高校ボランティア部の生徒さんが、うちわをふりながら多くの参加者に登録を呼び掛け、自らも初の献血と骨髄バンク登録の説明を受けた。昨年「協議会全国大会」で

い方もいらつしやるものと推測されます。理事名簿を眺めれば、全国知事会の会長、日本医師会の会長、日本放送協会の会長等々、「本当？何かの間違いでは？」と呟きたくなるようなビッグタイトルが並んでいます。しかし、彼らが実際の審議に参加することなど、財団発足以来おそろく一度たりともなかったのではないのでしょうか。委任状が多くなるということは、会議での議論の余地がないということでもあるでしょう。議論が白熱し紛糾したことは皆無ではないかも知れませんが、私の知る限りでは、議案のほとんどすべてが粛々と可決承認されてゆくわけです。

物言わぬ役員存在は、迅速な意思決定、そして組織運営にとつては都合もよくありません。しかし、関係者、たとえばボランティアの、財団という組織に対する信頼は、その一点だけによつても損ねられかねないと思ふのです。一度も出席せず、意見を述べることもなく、委任状提出だけで済ませる役員は不要ではないのでしょうか。「不要である」というのが言いすぎであるならば、その人数を少なくする努力を、財団にはお願いしたいと思ふます。そして、骨髄バンクの将来を見据え、しっかりとした意見を披露できる人材を協議体に参加させるべきだと思います。

2回目は残念ながら西岡選手の出場はなかったのですが、「生涯初の野球観戦」という会員の方も巻き込んで、大声でチームを応援し、球場独特の一体感とともに会員同士の一体感も感じられたような気がします。

登録会や普及啓発イベントで、8月7日から9日まで、「第50回瑞浪美濃源氏七夕まつり」が開催された。メインである「よさこいソーラン踊り」には全国各地から64チーム3千人の汗が猛暑の中に吹き飛んだ！

本紙203号と204号で取り上げた「財団理事候補者を推薦させておきながら、全国協議会が全幅の信頼をおき最も適任

今シーズン、「ヒット一本打つたら1万円を寄付」してください。ことになった西岡選手に更に頑張ってもらおうと、7月17日と8月2日の2回、千葉の会メンバーと共に応援に行つて来ました。

1回目は西岡選手がスタメンで出ていたので、打席毎に当会事務局長手作りの「西岡応援ボード」を掲げ熱い応援をしたのが功を奏したのか(?) ヒットも出て、チームも快勝！さらに5回の裏には球場上空に打ち上げられた花火も綺麗に見え、素直に野球観戦を楽しんでしまいました。



岐阜

バンクの未来を若人に託す

お世話になった札幌からの大学生グループで快く登録を承諾して下さった方や、また「北海道に帰ったら必ず登録します」と踊りに戻った若人たちにバンクを託す。(中野)

「わたし、がんばったよ」と題されたこの作品は、四歳時に発病した白血病のこと、苦しい闘病生活、そして骨髄バンクを通じて移植を受け、元氣を取り戻してゆく過程を、家族や友人、提供ドナーへの感謝の気持ちと、残念ながら天国へと旅立った幼い闘病仲間への哀悼の気持ちをこめて描いています。

地元民放のニュース映像をインターネットを通じてご覧に

各地のたよりを写真を添えてお寄せください。

各地のたよりを写真を添えてお寄せください。



各地のたよりを写真を添えてお寄せください。

富山 闘病生活を描いた小学一年生手作り絵本をパネルで展示

本紙7月号で報告した富山でのパネル展ですが、その第二弾を、去る7月11日から2週間、射水市中央図書館展示スペースをお借りして開催しました。今回は前回のパネルに加えて、射水市内の小学校六年生の女子児童が

富山 闘病生活を描いた小学一年生手作り絵本をパネルで展示

本紙7月号で報告した富山でのパネル展ですが、その第二弾を、去る7月11日から2週間、射水市中央図書館展示スペースをお借りして開催しました。今回は前回のパネルに加えて、射水市内の小学校六年生の女子児童が



お世話になった札幌からの大学生グループで快く登録を承諾して下さった方や、また「北海道に帰ったら必ず登録します」と踊りに戻った若人たちにバンクを託す。(中野)

「わたし、がんばったよ」と題されたこの作品は、四歳時に発病した白血病のこと、苦しい闘病生活、そして骨髄バンクを通じて移植を受け、元氣を取り戻してゆく過程を、家族や友人、提供ドナーへの感謝の気持ちと、残念ながら天国へと旅立った幼い闘病仲間への哀悼の気持ちをこめて描いています。

地元民放のニュース映像をインターネットを通じてご覧に

備調整中です。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

(財団マンスリーレポート(8月15日発行)より抜粋)

●「第1回PBSCTに関する委員会」の開催
7月19日、「第1回PBSCTに関する委員会」が開催され、非血縁者間PBSCT(末梢血幹細胞移植)の実施に向けて検討が行われました。末梢血幹細胞移植(以下、PBSCT)は平成12年4月に医療保険が適用となったため血縁者間で実施例数が増加し、当財団でも非血縁者間での実施について検討が開始されました。その後、国の造血幹細胞移植委員会(以下、審議会)が設置されましたが、平成15年に血縁PBSCドナーが白血病で死亡する事例が生じたため、国は顆粒球コロニー刺激因子(以下、G-CSF)投与との関係について、日本造血細胞移植学会(以下、学会)に調査報告を求めることとなりました。そして、平成20年3月の審議会において、G-CSF投与と白血病発症に因果関係は認められないとの報告が出され、非血縁者間PBSCTの導入のための検討を進めることとされました。

PBSCTは患者サイドのメリットとして、コーディネート期間の短縮の可能性があること、現行の骨髄移植において不測の事故が発生した場合等に有効な代替手段となり得ること、骨髄採取における骨髄採取施設の制約(採取時の手術室や麻酔医の確保)の緩和が期待できること等があります。また、ドナーサイドのメリットとして、麻酔アレルギー等の骨髄採取不適格ドナーや全身麻酔に躊躇を感じるドナーにとって、骨髄提供の選択肢を増やすこと等があげられます。非血縁者間PBSCTは既に世界的な標準医療となっており、わが国においても一刻も早く導入することにより、より多くの患者救命を可能にしたいと考えています。

平成20年度に発足した厚生労働科学研究班の委員からは、現時点までに諸々の基本的なルールやマニュアルの作成に向けての基本的事項の検討が

◆日本骨髄バンクの現状(平成20年7月末現在)

	6月	7月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,548	2,731	341,818	435,405
患者登録者数	254	213	2,617	28,146
骨髄移植例数	104	122	-	10,759
20歳未満ドナー登録者	-	176	10,302 ¹⁾	-
51歳以上ドナー	229 ²⁾	105 ³⁾	15,430 ⁴⁾	-

■7月の区分別ドナー登録者数: 献血ルーム/964人、
献血併行型集団登録会/1,576人、集団登録会/103人、その他/88人

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。
*1) 17年3月~ *2) 51歳以上ドナーの延長数 *3) 51歳以上ドナーの新規登録数
*4) 17年9月~

骨髄バンクNOW

行われており、平成21年度は平成22年度からの実施を視野に入れて更に検討を深めている、との説明がありました。本委員会は、次年度から当財団においてコーディネーターの研修やコンピューターシステムの改修等を行うべく、7月以降、月1回のペースで開催され、平成22年1月を目途に中間方針をまとめる予定としています。

●「第1回広報推進委員会」の開催
7月14日、「第1回広報推進委員会」が開催され、本年度はドナー登録者の拡大につながる広報活動として、ACに代わるマスコミ媒体の活用や、今後の広報活動の効果的な展開などについて検討を行うこととなりました。ウェブの活用等といった個別の施策については、専門家を中心とした分科会を立ち上げて検討を進めていく予定です。

●骨髄バンク応援イベント
■TOSHI「骨髄バンクチャリティコンサート」: X JAPANのボーカリストTOSHIさんがメインアーティストとして参加する、骨髄バンクドナー登録の普及活動支援を目的とした「コンサートフォーフレンドシップ」が開催されます。
問合せ先: コンサートフォーフレンドシップ実行委員会 TEL 03-5327-4975 HP http://www.taisetsunamono.net
■映画「私の中のあなた」: 10月9日の映画公開に併せ、骨髄バンク支援キャンペーンを行います。